

令和 5 年度

橋本市総合教育会議録

令和 6 年 3 月 2 6 日

令和5年度 総合教育会議 次第

開催日時 令和6年3月26日(火) 午後1時30分～午後3時19分

開催場所 橋本市教育文化会館 3階 第1研修室

出席委員	市長	平木 哲朗
	教育長	今田 実
	教育長職務代理者	田中 敬子
	教育委員	吉田 元信
	教育委員	簗下 純男
	教育委員	中下 小夜

出席職員	総合政策部長	土井 加奈子
	政策企画課長	中岡 勝則
	教育部長	堀畑 明秀
	教育委員会参事	阪口 浩章
	教育総務課長	岡 一行
	学校教育課長	大谷 裕幸
	生涯学習課長	長谷川 典史
	生涯学習課社会教育主事・学校教育課主任指導主事	木下 豪人
	中央公民館長	中田 幸
	学校給食センター長	井上 恵二
	図書館長	大西 基夫
	図書館長補佐	辻田 文代
	教育総務課長補佐	中林 正
	生涯学習課長補佐	中岡 祥子
	生涯学習課文化係長	内藤 健一郎
	生涯学習課文化係主査	山本 雄貴

1 開会

2 あいさつ 橋本市長

3 議題

(1) 目指すべき図書館像について

開会

教育部長

ただいまから令和5年度橋本市総合教育会議を開会いたします。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。本日の会議は、堀畑が進行させていただきます。

開会にあたりまして、平木市長から挨拶を申し上げます。

市長

皆さんこんにちは。

総合教育会議ということで、久々の開催になると思います。中下委員が来てから開催したことがないという気がします。コロナもありましたし、いろいろあったと思うのですが、やはり市長部局と教育委員会部局の考え方というのをうまく連携をとりながらやっていく必要があるのかなというふうにも思います。またこれからICT教育であったり、どんな橋本市の教育をしていくのかというのを、やはり市長部局もきちっと知っておかないといけないと思いますし、ハードはこちらでやればいいとは思いますが、やはり教育というところがこれから非常に今の子供たちにとっては大事な事かなと思います。今、いじめの問題でも議会でいろいろ言われていますが、本当に情報をしっかり共有して、どういう教育を進めていくのかというのは、予算もつけなければいけないのでいろんな提案をしてもらおうということが大事かなと思います。

今日は、目指すべき図書館像という話で、私も資料を見せてもらいましたが、この教育文化会館の5階にある今の図書館で、他の進んでいるところをやろうとしても、構造上非常に難しいという問題もあるのかなと、市でも図書館長さん中心にやってもらっていますけれど、今の図書館をやはりどういうふうに活用していくのかという議論も他に何か入れるにしても、5階なのでなにか取らないといけないという現実もあると思うので、来年度予算では図書館の本の入れ替えをしてもいいよということで図書館の方にも言っています。若干逆に言えば、本の整理をしてそういうスペースを作るのか、ただ単に古い本を入れ替えるのかという事も考えていかないと、あそこは地震が来たら横揺れが来たら、上から落ちると崩れるのは間違いのないという現実もあります。その辺も含めて、今の図書館でどういうことができるのかという議論をしてもらうのが、いくらよそのいい情報を持っても現実にスペースがないのに、例えば4階と5階をうまく使うとかということが、果たして耐震構造上できるのかどうかという問題もあろうかと思います。

将来的には、図書館を移設したいという考え方は持っていますが、現状ちょっとまだ、それをするのにかなりの時間がかかりそうなので、そういう話が決まれば、また皆さんに報告をさせてもらって、その時に新しい図書館はどういう造り方をするという議論をしていただこうかなとは思っています。まだ、雲の上の話なので、ちょっと前に、これからややこしい話も出てきているので、これからどうするのかというのはなかなか難しい話になります。今回は今の図書館をどうしていくのか、できたら学校図書においても、14校中9校が蔵書基準不足となっています。それは予算をつけて入れるようにはするのですが、もっと短時間でやりたかったのですが、

いよいよ本を調達しないと教育委員会に言われたので、7 年間かけてそこを充足していくということを考えていますし、学校図書の活用というのも、また考えていただければいいのかなと思います。今日はいろいろご意見を聞かせていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございました。

では本日の会議の流れを説明します。まず、会議の議題は、目指すべき図書館像となっています。初めに、生涯学習課から資料の説明をします。1 ページの図書館の概要から 4 ページまでを説明し、5 ページ 6 ページの図書館を充実させるために世代ごとにご提案とご意見をいただきます。その後、事務局から 7 ページから 14 ページまで説明し、その後 15 ページの他市図書館から取り入れたい機能について、皆様からご提案とご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。また、説明する資料について、何かご質問があれば事務局から説明します。皆様からいただいたご意見を、今後の教育委員会の取組みに反映していきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

目指すべき図書館像について、生涯学習課から説明します。

生涯学習課長

それでは、お手元の A4 横の資料、目指すべき図書館像をご覧ください。

1 ページ橋本市図書館の概要。現在の図書館の概要をこちらに記載しています。開館時期は、昭和 51 年 11 月からです。延べ床面積が 1,400.1 平方メートル。現在の人口は、令和 6 年の 2 月末人口ですが 5 万 9,329 人、それに対して蔵書数、令和 4 年度の末の数字ですが 16 万 9,682 冊、年間の貸し出しの冊数は 23 万 1,248 冊。開館時間は午前 9 時から午後 6 時。休館日は毎週月曜日及び年末年始となっています。橋本市図書館の通常の貸し出し業務以外の活動内容としましては、図書館講座、読書会、英語に親しむ活動、図書館を使った調べ学習、本の福袋、ビブリオバトル、絵本の読み聞かせ、移動図書館となっています。

次のページです。橋本市図書館の課題ということで 5 点あげています。まず、自習、読書するためのスペースが少ない。飲食が可能なスペースがない。駅から遠くアクセスしにくい。5 階にあり災害時に不安がある。バリアフリー対応が十分できていない。

次のページです。目指すべき図書館の基本軸、情報を知る権利を保障する図書館。これは全ての人にやさしい図書館。市民の創造性に触れる図書館。協働の観点を取り入れた図書館。これらは、市民に身近な図書館であると考えています。一旦ここまで説明いたします。

教育部長

それでは、5 ページ 6 ページに、橋本市の図書館を充実させるために、身近に図書館を感じていただくために、また、図書館でくつろいでいただくためにはどうしたらよいか、ご提案とご意見をお願いします。

まず、世代ごとにご意見をいただきたいと思いますので、初めに子育て世代、未就学児の方からご意見を願います。

教育長 よろしいですか。これ考えるにあたって、基礎データになるかなと思うので、ちょっと欲しい情報があるのですが、23 万 1,248 冊借りていただいているということですが、どんな人たちが一番多く借りているとか、よくここへ来られているとかというのがあれば教えて欲しいです。

図書館長 年齢別の貸出冊数で見ますと、圧倒的に多いのがやはり 60 歳以上の方の貸し出しが最も多くて 6 万冊以上が 60 歳以上となっています。次いで多いのが、7 歳から 12 歳の子供、小学生の年代です。それから 40 歳から 49 歳、30 歳から 39 歳です。やはり中学生から 30 歳ぐらいまでの間というのは、非常に少なくなっているのが現状です。以上です。

教育長 加えてですが、そのようになっている要因と言うのか、そんなことについて職員で話し合っていることはありますか。

図書館長 やはり開館時間の関係もありますが、どうしても働きに行っている世代の方々というのは、なかなか図書館が空いている時間に来れないというのが 1 つ現状にあるかと思います。あとは、中学生・高校生については、やはり学校へ通っている時間、また、やはり特に中学生なのですが、読書離れが進んできているのがあるのかなとは思っています。

田中委員 今、聞かせていただいて、きっと保育園や子ども園に通っている子は、園でちゃんと貸し出しを一応して来てくれます。お休みの日は、親子で来られることがあるので、低学年とか保育園の子はそのまま読書の癖がついているので、来てくれるのだろうと思って聞かせていただきました。

後は、小学生はやっぱり小学校の図書室を利用することもあるので、図書館での貸出は少なく 1 人でなかなか来れないというのがあるのかなと思います。ブックー号などの活用をきちっとして下さっていると思うのですが、ブックー号は皆さん利用できる時間帯にちゃんと行ってくさっていると思うのですが、今現在、たくさんの方に利用していただくために何か工夫などされていますか。

図書館長 ブックーに関しての、特に小学校であったりとか子ども園さんが利用しやすいように、どういう工夫というのがあるのかということですけども、まずは、図書館の 1 年間のある程度の日程を、いついつこの小学校、こども園というのを組みわせていただいて、それを一旦各小学校であったり各ステーションですね、こども園とか福祉施設の方に連絡しまして、こういう状況で、こういう時間帯でこの日にこの時間帯で行きますよというのを見てもらって、ある程度その意見を集約させてもらっています。一番最善のところをとって、最終的に計画として立てていっていますので、細かいところではいろいろまだまだ至らないところもあるかもわかりませんが、一定のその意見の集約はさせていただき運行しています。

田中委員

まず子育てしている方たちの世代ということで、私は子育てしながら何度も図書館に通わせていただきました。子育て中は荷物もたくさんあるので、車での移動が多いと思います。そのため駐車場は止めやすい方がよいと思います。駅に近い方がよいと思いますが、交通の便が良いという意味では駐車場は大切だと思います。

子育て中の困りごとともすぐ調べられるような、離乳食であったり、子育てのことであったり、そういったことがすぐ、ちゃんとしたコーナーがあって調べられるのがいいと思います。あとは、本だけじゃなくて、子供の遊べる場所が近くにあるというのが望ましいかなと思います。本当は、図書館というのは静かにしないといけないところではありますが、やっぱり多少おしゃべりできるようなところがあると、お友達と来ても会話ができるスペースというか、あったらいいと思います。

今、橋本市で取り組んでくださっているブックスタートというのは、すごくいいなと思っていて、なかなか時間が取れなくて子供さんに本を読み聞かせということが難しいと思うのですが、この時間というのがすごく大切になってくるので、こういうことをきっちりできる、してもらっている子供たちは、結構本を身近に感じている子供ではないかなと思います。

くつろぐためにということでは、今、スペースを作ってくさっていますが、ゆったりした靴を脱いで読めるスペース、親子で読書ができる、あとは授乳やご飯を食べられるようなところがある、トイレもゆったりしている方がいいかなと思います。あと、ベビーカーで来やすいということなどです。

教育部長

ありがとうございます。

吉田委員

現状の図書館というのは、ちょっと言葉悪いですけども図書館じゃなくて図書室みたいな状態ですね。だから、限られたスペース、限られた予算の中で、何をどういうふうに効率的にやるかというのは、非常に難しいところがあるとは思っています。特に若い世代の活字離れが進んでいると、それをどういうふうに引きとめるかというのは、1 つ大きな大事な点だとは思っています。そういう中で、図書館のスペースでちょっとしたミニ講演会みたいなのを図書館でやる、そして、そこに講演内容に近い本を並べて、読書の習慣というのか読書のきっかけを作るような少し工夫をしてもらえればいいのだらうなと思います。図書館講座という形でやっていたけているのは、非常にありがたいとは思っていますが、これと現状のその本が閲覧できるスペースが5階にある、図書館講座という形で3階でやる。やっぱり図書館の中でそういったミニ講演会みたいなのが出来て、そして、実際に講演の内容はこの本かと言うのが具体的に見れる。そういう状況というのは大事だらうなと思います。要するに60歳以上の世代というのは、言ってみれば、ある時間の中で図書館へ行って図書を借りる、そして読む、それはある程度、想像はできることなのです。そういう意味では、これは非常に難しいところですけども、図書館にリファレンスの能力にたけた司書さんがいる。1つの事1人の人が、いくつかの分野に対して精通している必ずしも必要なくて、いくつかの部分を図書館司書さんで対応する。それ

は今後、絶対必要になると思うので、その専門図書館司書さんがリファレンスに対応できる専門分野をできるだけ分担しながら、すぐにアドバイスできる、これは60歳以上の世代の人たちにとっては非常にいい、働く世代もそうだと思うのですが、的、的確に重要な本を示していただけるというのはすごく大事だろうなと思います。そして、一番この未就学児の世代、今現状がそういうスペースは作っていただけているのですが、要するにスペースの関係というのか、図書館自身の持っているスペースとも関係している、やっぱりかなり走り回るぐらいのスペースがあるというのは非常にいいのだろうなと思います。そしてそこで読み聞かせできる、走り回ることができるというような、そういうのは、絶対必要だろうなと思います。ちょっと雑然とお話させてもらいましたが、以上です。

教育部長

ありがとうございます。

簗下委員

本の読み聞かせの場で、この同じ雰囲気を持ってそれを共有して、子供のみならず親の交流の場を作るというのは、本当に大事なことだと思うのです。核家族化が進んでいる現状考えてみると、ますますそれが必要になってくるなと思います。この読み聞かせが終わったときに、はい、さようならではなくて、親同士もやっぱりせっかくですからその場で交流したいと思うのです。いろんな情報交換したり、子育ての話をしたり、そんな場を考えたときに、今の図書館のスペース、面積でも僕はもうやむを得ないなと思うのですが、先ほどからもちょっと子供が走り回れると言いましたけれども、あまり走り回るのは図書館ではどうかなと思うのですが、時にはいいのではないかと、その場合、何か衝突で困むとか、少し子供たちがドタバタしてもいいような雰囲気も必要ではないかなと思います。

ただ、今お話で読み聞かせをやっているこの雰囲気というのは、一般の人が来たときにも微笑ましいというか、非常に好ましい雰囲気だと思います。そこで大事になってくるのが、保護者からの読書相談というのに、まさにリファレンスですね、これにどう答えていくかということが大事だと思います。子供にこんな本がいいよとか、そんなアドバイスをしてくれたら、親も本当に嬉しいのじゃないかなと思います。

教育部長

ありがとうございます。

中下委員

図書館のできた年代を見せていただいたら、随分時間も経っていて、でも限られたスペースの中で、未就学児から年配の方まで利用しやすいような工夫をいただいているというのが第1の感想です。そんな中で、今もお話がいったように、未就学児、子育て世代の親御さんにとっては、本当にストレスのたまるようなこともあって、どこか何かほっとするくつろぐための場所があれば、その1つが図書館であればいいなと思います。

今もお話あったように、読み聞かせの会とか乳幼児に対するイベント的なものも開催されていて、ただ参加していただいている人数が少ない。じゃあどうしたら来

ていただけるのかということになると、やはり本を読むとか、そういうことだけに目を向けるのではなくて、もう1つ何か付加価値というか、おもちやがあつて子どもがゆったりして、そこへ行ったらまた違った時間を過ごせるとか、それから読み聞かせの後、交流もそうですが、例えば相談員の方が一緒に参加して下さっている、子育ての悩みだったり同じ悩みを持つ親御さんと一緒に1つのことを語り合うとかそんな部分もあつていいのかなと思いました。

違う図書館の話は、今は、言えないのですが、でも隣接したところで子育て支援センターみたいなのところがある図書館もありますので、そういったものは子育て世代の方にとったら必要なのではないかなと思っています。以上です。

教育部長

ありがとうございます。

教育長

先ほど、どんな人たちがよく来られているのかを聞かせてもらう中で、やはり時間というのがすごく関係していると思いました。それで活動内容に示していただいている八つあるのですけれど、この内容というのは単独ではなくて、先ほどからの意見を聞かせていただくと、目的は本に親しんでもらうということが目的になるのですが、そのためにそのことだけをするのではなくて、何かと足し算したり、何かと掛け算するようなことというのは重要じゃないかということを言っていると思うのです。例えば、本の読み聞かせというのもやっています。本の読み聞かせだけでやっていますか。他のことと何か一緒にしてやらないかなと、そんなことがあったら教えて欲しいのですけれど、どうですか。

図書館司書

季節だけですが、工作とか折り紙とかそういったのを、よく土曜日のボランティアさんの読み聞かせの後に一緒にしています。

教育長

どうですかその反響というのは。

図書館司書

季節的なこともあるのですけれど、子供たちみんな喜んで一緒にやってくれています。

教育長

今聞くと、そういうこともしてくれているのですが、ターゲットがはっきりしていますよね。例えば、図書館講座だったら誰をターゲットにして、図書館講座をしながらこんな目的とかという対象者、ターゲットと主な目的で付加の目的というようなことを整理して、これを行った時に足らないものとか、よくやっているものというのが見えてくると思うんです。ここには項目が書いてないのでその辺りわからないのですけれど、その辺りもう少しお話を聞かせてもらえるのであれば、すごく年代ごとにターゲットもはっきりしていくと、やっていないターゲットというものも出てくると思うのです。やはり仮に来てくれない人たちをターゲットにしたものというのは、多分ここの中に少ないと思うのです。そういう辺りで、もう少し説明いただけることがあったらありがたいですが、見えてくるものもあるので

はと思うのです。

図書館長

このターゲットで言いますと、この一番最初に書いてあります図書館講座というのは、ターゲットを特に設けてはないのですが、参加していただいている方の年齢層を私も見てみますと、やはり 60 歳以上の方々が多くなっています。なかなか若い人というのは来ていないのが現状です。

読書会これも日曜日とか、それから火曜日に英語であつたりとか、近代文学、源氏文学の読書会をやっているのですが、ここもやはり年齢層はやはり高い。英語も今言いましたが一緒です。それから、図書館を使った調べ学習これについては、小学生が主にターゲットになっています。中には大人の方でも作品を出していただける方もいてるのですが、大多数が小学生という形で小学生にターゲットを当てたような学習になります。

本の福袋は貸出です。毎年正月明けの最初の土曜日ぐらいに行っているのですが、福袋の中に本が 2 冊入っているのですが、ヒントだけ書いてあつて中にどんな本が入っているのかは書いてないのです。それを借りてくれる人が想像して、どんな本が入っているのかなと想像して借りていただくというような形なので、これは一応世代別に、全部のジャンルを幼児向けから、小学生、小学生高学年、中学生、高校生、それから大人に対しての福袋として、数はまだ少ないのですが用意して行っています。

ビブリオバトルについては、これは中高生がターゲットになっています。絵本の読み聞かせは、先ほど言わせてもらったとおり幼児、未就学児を対象です。移動図書館については、各小学校それからこども園、保育園、幼稚園、それから市内にある福祉施設を回らせていただいていますので、主に小学生がターゲットになっているような事業になっています。

だから、今、教育長に言われたとおり、そのターゲットとしてやっぱり中学生、高校生への若い世代、12、13 歳から 20 歳代ぐらいまでのターゲットになるようなものが、やはりないというのが現状になってくると思います。

市長

今話を聞いていて、ただ総花的にやっているようなことなのでは。結局、橋本の図書館は、どこをターゲットにしてどういうふうにするのかというのが、なんか総花的で、移動図書館ブッキーなんかは別の話です。ただ本当によくわからない。蔵書にしても、どこをターゲットにして蔵書を増やしているのか、そういうところ蔵書は 17 万近くあるけれど、これってどういう人をターゲットにしているのか、全く読んでない本はないのかとか、なんかそういう棚卸をしていかないと逆に先にしないといけないのかなと思います。

さっき司書の話が出ていましたが、本当に正職の人雇わなくていいの。そんな議論していないのと違いますか。会計年度で予算は取ってあるけど、でも本当に図書館を変えていこうとなったら、やっぱり専門性の高い司書の人に来てもらってやっていくという考え方も必要ではないかなと、図書館の方が人少ないのにとっているでしょ。だから本当に図書館を活用して何かするのであれば、やはりもっとこう

例えば、未就学と言うけど、これってあちこちでやっているよね、ヘスティアさんもやっているし、実際、本当にそこに力を入れる必要あるのかという問題もあると思うし、小学生の子供たちにどんなことをしてあげたらいいのかがあって、この内容を見てどうなんかなと思う。図書館として何をやりたいかというのが、資料を見ても何をターゲットに、何をどうしたいのかというのがよく見えてこない。

限られたスペースの中で、どういうふうに走り回ってというけど、そんなこと実際可能じゃない。例えば、先ほど言われたように、下にそういうテーマを決めて、ここを使ってイベントをしてあげるとかだったら可能かなと思うけど、何か理想的にはそうかもわからないけど、やはりもうちょっとあのスペース以外のスペースでどういうことが本当にできるのか、思い切ってもういらないところを、よく展示とかしてあるところって本当はどうなのだろうということも考えて、場所のスペースを確保するのだったら、逆に思い切って取るべきものを取ったらいいと思う。あのままやっても場所がないのに、置いてあったらそれだけ邪魔になるので、実際もう使っていないところとか、もう全然読まれていない本は撤去するとか、何かそういう整理をまず棚卸しをきちんとして、こういうことをやりたい。これは、生涯学習課が決めるのではなくて、図書館でこんなことをやりたいという、こういうことをもっとやったらという議論を図書館でやったらいいと思う。やはり図書館をわかっている人達が、こういうことに力を入れたいという話でまずは考えるべきだと思うし、ただ、そのスペースのなさを考えると、やっぱりいらないものを取らないと仕方ないのと違うかなと思う。もっと、そういう子供らが遊べるような島を作って、そこから飛び出さないような島を作ってあげるとかを考えないといけないのと違うかな、いきなりこんなのをしたらいいというのが出てくると思うのだけど。でもそれって実際可能なのかと、どこにターゲットを絞るのかという問題も、逆に小学校・中学校でもっと本読んで欲しいわけなので、ここへ来なくても学校でそのために学校司書というのを入れてあるわけで、それはその司書の人たちが子供と、やはり本を楽しく見る環境というのをもっと作ったら、次に市の図書館も行ってみようかってなるのだけど。今それが申し訳ないけど誰も本足らんと言ってくれないので、今年からやっと本を買うようにしたけれど、なんかそういうところも、やはり逆に今あるスペースをどう有効に活用するか、どこをターゲットにしてやっていくか、もちろん高齢者の人も60歳代以上たくさん来てくれているのだったら、高齢者福祉に繋がるから来てもらうというのは非常にいいことなのです。だからその辺を考えた方が、良い話はいっぱい出るのですがじゃあそれが実現可能かという、司書って今の数でいいのかという問題もやはり図書館で本を読んでもらおうと思ったら人の投資もしないといけないし、そういうこともちょっと整理した方がいいのではないかなと、いい話は出てくるのですが、現実どうだという疑問が非常に残ったとは思います。

教育部長

市長ありがとうございます。

簗下委員

市長が言われるのも最もだと思うのですけれども、現実の問題を見つつも、将来

的にはこんなものになったらいいなっていう気持ちもちょっと僕ら込めて言っていますので、今言ったことがすべて、たちまち実現できるかと言ったら、そうでない部分が大分あると思うのです。でも、こんな方がいいねと言いながら、その中でこれは削っていかなければしょうがないっていう気持ちで言っていますので、ちょっと実現できそうもないことも言うことあると思うのですが、ご了解いただきたいなと思います。

田中委員

順番に行かなくていいということなので、こんな事をしてくれたら嬉しいなっていうのを少し言わせてもらっていいですか。先ほど工作とか折り紙で、イベントしてということをおっしゃっていたので、小学校の子が大人数来てってということが難しいので、夏休みに各公民館でいろんなイベントがあるので、それに沿った興味のあるような本を選書していただいて、イベントあるときにちょっと置いてもらう、本を身近に感じてもらうであったり、興味が広がるであったりしたらいいなと思います。

福祉センターの下のところにも本を並べてくださってあって、ちょっと休憩のとき座って読ませてもらうのです。ああいうところも活用できたらいいなと、なんかいろんなところで身近に感じられると、図書館にももっと行きたいなと思うのかなと思いながら聞かせてもらいました。何か、そうすると人がいるのだろうと思います。学校の連携のところでも学校司書さんが、図書室を綺麗にしてくださって居心地のいい場所になってきていると、実際、私も図書室に入らせてもらいながら感じています。司書さんと先生の連携、司書さんと図書館の連携というのが、どうしてもどこかで遠慮というのが出てくるのかなと思いますので、誰かそれこそ中心になる人を決めていただいて、まわしてくれるような人がいてたらいいのかなと個人的には感じます。

もう1つ、いつもよく言うのですが、テスト期間中になると中・高生がテスト勉強をしに図書館に来るのですが、みんなテスト期間が一緒なので場所がないのです。出来たらせっかく勉強をしにきていますので、どこか空き室があったら、どんどん開けてあげてくれたら嬉しいなと思います。勉強するところに、参考書であったり何かそういったものも身近にあったらいいと思います。子供たちはテスト期間中になったら図書館の取り合いになっていますので、どうにかあそこを解消していただけるアイデアがあったら嬉しいなと思います。

教育部長

ありがとうございます。

市長

結構4階は広い部屋ばかりで、展示会とか絵画の発表会の時は使っていますが、市も辞令交付の時でしか使っていないので、4階にそういう場所を置いて、一時的にテスト期間中はここも開放しますよという使い方を考えたらいと思う。

イベントするのであれば、それは準備しないといけないし、どんなものを持ってくるとかの企画を立てて、空いている広い部屋って本当使いにくいので、その辺のことをやはり考えて、そこで図書のイベントをその時だけやるとか全然大丈夫だと

思うのです。あのスペースの中でやるのはしんどいけど、別の4階は2つとも広い部屋あってLEDに変えたのに少し活用の仕方というのも考えたらと、受験勉強用に4階を何も使わない時は公開してあげるというのもいいのではと思います。そういう使い方を空いているところがあるのに、さっき言ったように図書館でスペースを削れるところは削る、古い本でもう読まれてないのであれば思い切って処分をし、蔵書を増やしてあげる、もっと新しい本に興味ある若い子が読むような本があれば入れたらいいと思うし、そういうふうに一度、図書館には言っているんで、来年予算つけるからどういう本を入れたらいいのかと、処分する本はどうするのかと。ちょっと令和7年度予算で措置するので、そこは今少し考えてもらっているけれど、どういう人たちにってもらおう本を増やすのか、そういうところも是非司書の方に考えてもらいたい。

中央公民館に子供らが来る部屋を開ろと言っている話が全然進んでないので、だったら空いている部屋を机と椅子はいっぱいあるので、別に真ん中に何かカーテンか何か引いてもいいと思うので、教育文化会館へ来たらここでテスト勉強できるよというような、もしテストに関係あるような本があるのであれば下ろしてあげるとか、そういうことを別に1年中そこを全部使えというのではなくて、テスト期間中そういうふうにしてあげるとか、もう少し柔軟な発想を持って、こういうことができるのであればやってあげる。なんか司書がいるのであればと言ってもなかなか上げてこないけど。本当に専属の司書がいるのであれば、正職で雇ってあげたらいいのではと思う。

教育部長

市長ありがとうございます。市長の方から、蔵書の処分と新しい図書の入れ替えという事について図書館として、どういうふうに今、実際行っているのかということと、4階の広い部屋が空いているのであれば実習室に開放してあげてもいいのではないかとご提案いただいたのですが、図書館からは、蔵書の入れ替えを今、どういうふうな形で行っているのかということと、中央公民館からは、4階の広い部屋の使い方について説明いただけたらと思いますので、お願いします。

図書館長

図書館では毎年2月の中で2週間ほど蔵書点検をさせていただいています。その間は図書館を休館し、棚卸し的な全部チェックをかけておこなっているところです。それから、今年度につきましては、どんどん蔵書冊数というのがここ何年かの間でずっと増えてきておりますので、私の考え方では、増やすというより捨てるものを考えなさいと、捨てれるものは捨てなさいと、蔵書は極力増減のないように多少減ってもいいですけど、古い本というか、もう見ないこれはもう情報が古いとかいう本については、除籍して廃棄していったって少し身軽くしないと、これ以上、本を5階の図書館に置けるようなスペースはもうないですし、書架もパンパンになってきている状態が続いていますので、今年度以降、徐々に進めていこうと思っています。今年度も、4,000冊蔵書点検で除籍をさせていただいて、廃棄をする予定をしています。その中で、今残った本の中でも貸出し回数の多い本とか、特に絵本とかになると痛みが早いので、同じ本で新しい本に入れ替えるとか、そういったところを来

年度以降やって行き、古いというかボロボロになった本を、極力新しい本に更新していくと。ただ、絶版になってしまったものは、どうしても仕方ないのですが、ある本についてはそういうふうにしていこうという方針で、今動いているところです。

先ほど提案にもありました4階を借りてというのは、確かにいい方法だと思いますしコロナ以前はやっていたと思うのです。コロナになってから一旦それを止めていたので、今後どうしていくのかは考えているのですが、やはり市長も言ってくれたとおり、絶対的な人数がやはり足りていないというのが図書館にはずっとありますので、用意するにもなかなかその用意できる人数が割けないというのが現状にあります。そこはこれからしっかり考えていき、要求なりとかをどんどんやっていけたらと、それは生涯学習課とも相談しながらやっていきたいなと思っています。

中央公民館長

先ほどのご意見の中で、2件お話がありましたので説明します。

まず、幼児室の件ですけれども、今市長からお話があったように、今年度お話があったにもかかわらず間に合わせることはできませんでした。大変申し訳ございません。来年度に向けて早々に幼児室について、開けさせていただき、図書室で声を上げて活動できないお子様が利用できるように、土日の利用を検討させていただいています。それに向けて進めて行きますのでよろしくお願いします。

それと昔なのですが、多分夏休みの期間とかで、自習スペースということで共コミさんからお借りいただいた時期があったかと思います。市長からもお話があったように、広いスペースというのは確かに存在しています。利用者の方も限定されるところがあるので、それについても検討して行きたいと思うのですが、どうしても大きい部屋になってしまうと、準備も大変になってしまうかなと思っていますので、利用の内容について、図書館の方と相談させてもらって、貸館の方については検討して行きたいと思っています。以上です。

教育部長

今、図書館長と中央公民館長のから説明いただきました。他に皆さんよろしいでしょうか。

教育長

学校のことになるのですが、学校でも長年書籍を貯めてきた学校については、古いものがたくさんあります。蔵書数も多い、そんな時期がありました。でも子供たちが本当に借りたい本は、その中のどれだけかということそんなに多くない。なので、本当に子供たちが読みたい、そして、今読ませたいような本に変えていく必要があるという時期があって、かなり廃棄していきながら今の状態になってきています。標準冊数に達してない学校もあります。けれども大事なことは、本当に必要な冊数を読みたいと思うような冊数を入れてあげることです。ボランティアの方と話をしていると、やっぱりどうしても本って入ったときに、茶色っぽい色の本と、新しいカラフルな色の本って見たらわかりますよね。新しいのがカラフルです。そして茶色っぽい本は古いところです。子供は絶対新しいところにしか行かないというのですね。そして、そこへうまく今のボランティアの方々は、展示してくれているので、すぐに手にとって読んだり、そしてくつろげるスペースを作って、学校で読書冊数

を増やしたりっていうことをしている学校があります。これは学校であってもこの図書館であっても一緒かなと思います。ですから、本当に必要とされるものを、うちの状況を考えれば精選してやっていくっていうのは本当に大事なことだなというのは、学校と同じように私も思うところです。この図書館の予算というのが、年間、今 700 万ぐらいですかね、その中で、古い本でも新しいのに変えたり、本当に要らないものを処分したりしながら読んでもらえる冊数を増やしていってもらいたいなと思いますので、その辺りはよろしくお願いしたいと思います。

それと、今年、隅田小学校が、読書のことで表彰をいただきました。学校として読んでいる冊数がすごく多かった。それは、普通の図書館以外に、子供たちがくつろいで読めるスペースを作った、または学級で読書をしやすいような働きかけをして、言葉がけをしていったということで、かなり成果を上げてくれました。この中には、子供が読書に向くヒントになることがたくさんあります。その代表的なことが身近にするということです。やっぱり本を身近にすることが大事だと思うので、どうやればこの図書館の本が、市民にとって身近になるかという辺りを、今やっているイベントを取組んでくれている活動を通じて、身近に感じてくれている活動は何かというのを、1 回職員の方でも精査していただけるとありがたいなと思います。それは読書だけをしてないと思うのです。さっきも言いましたけれども、何かと掛け算したり足し算したりしながらすることかなと思うので、他のスペースも活用しながら、そのあたりはアイデア出してくれたら嬉しいなと思います。

教育部長

ありがとうございます。子育て世代、未就学児のところと、学生のところ、それから年配の方のところの一部出ておりましたが、他にここの 5 ページ 6 ページのところ、何かご意見ある方おられますか。

吉田委員

ターゲットをどこに絞るのだという市長のお話があったわけですが、やはり図書館というのは文化の中心であるべきだし、あるはずなのですが、そういう意味では、どの世代に対しても身近な存在であって欲しいと思います。ただその中でも、やはり先ほども言いましたけれど、読書離れが進んでいる中高生をできるだけ図書館に呼び込むためのやり方で、教育長も何度か言ってくれているように、要するに掛け算する、そして意識をする、というそういう手だてはやっぱり必要だろうなと。その意味では、図書館にアニメ本が置いてあってもいいのだと思いますよ。だから、できるだけ興味を持てるようなものも配置して、そして、それだけじゃなくて、活字も読んでみようかと思う、そういったちょっとした工夫で、やれるところはやってもらえればありがたいなと。

VR なんかの施設を新たに作るというのは、これはもう無理だと思いますけれども、そういうのに近いことが何かできそうだったら、やっていただければいいのだろうなと。とにかくターゲットは、中高生の読書離れをどこまで、いい形で引っ張り上げるか、これはやはりこれからの橋本を良い形で持っていくために、次の世代をどういうふうに育てていくかということで非常に大事だと思いますので、よろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございます。

田中委員

確かに中学校の図書室に漫画の本が置いてあるとそこは大人気で、1週間ぐらいで返してねという約束で、回転も早いように思います。やはり楽しみ方のきっかけというのが大事だなと思います。以前お話をさせてもらった、中学生以上の子、よかったら来てねと旅の楽しみ方講座ですよみたいな、誰が行ってもいいよと中学生以上と書いてくれていたら参加しやすいなとか、あとは音楽であったり、何かイベントごと、音楽、ギターするとか、それを図書館にしてくれて言ったらどうかなのですけど意見として、何かそういったインスタグラム写真講座をするとか、若い人たちが興味を持つようなことをきっかけの講座に、そういった広がりがあったらいいなと。勉強の講座ばかりだと中学生高校生は、参加というのがなかなか難しいのかなと思うので、絶対してくださいってことはないですが、何かそういったところに発想が飛んでくれたら嬉しいなと思います。

教育部長

ありがとうございます。

中下委員

私も図書館は、本を読むっていうところでもあるのですが、いろんな方々の交流の場という、そういう役割もあると思うのです。なので、人の流れが常に図書館に向かうような、そういう仕掛けをどこか考えていただけたらなと思うのです。

その1つに先ほどから言われていたように、趣味とかいろんな交流をする、そういう場所であればいい、ヘスティアさんとかもよく提案してくださっている何か子供たちのための思い出に残るようなものを作ったり、手芸のものであったり、写真だったり、いろんな文化に携わってる方の力を借りながら、作ったり見たりするのを図書館の1つのスペースでしながら、ここの図書館にはそういったものの本がここにある、そこにある、図書館行くとああいう本に出会えるなという相乗効果というか、そういったものもあるので、交流の場としての図書館の位置付けというのもこれから大事なのではないかなと考えています。以上です。

教育部長

ありがとうございます。

市長

やはり、図書館をどういうふうに使って、どういう交流の場にするのかというのも企画をしてもらったいいのではないかなと思う。それに対して、ちゃんと実施計画の中で教育委員会が提案してもらったら予算をつけていくという、そういうことはするので、やはり具体的にこんなことをしたい、こういうふうにしようというものを上げてきてくれたらいいのではないかな。

図書の予算も増やしていつているし、来年は図書館の本を買う、撤去して入れるのか、逆にもっと興味がある、そういうパステル調の本を置いてくれるのか、あるいは何か置いてくれるのか、そこについても予算をつけると図書館に言っているので、これからちゃんと精査して、どれぐらいの費用がかかるかというのを出しても

らったらいいと思うので、やはりそういう、どこをターゲットにするよという企画、人を呼び込む企画を作らないと、なかなかうちの場合は5階にあるし狭いし、いろんな問題があるので、そういう今、本当に力を入れないといけない年代、中高生だったら中高生のために何をしてあげるのかとか、そういう企画をちゃんとしてくれたらいいのでは。そうであれば予算はつけやすいし、人への投資もしていきやすいかなと思うので、やはり現実を考えてもらうというところが大事なかなと思う。そこは予算があるのであればつけていくし、図書館の多少の撤去する費用があるのであれば、それはもう撤去して、その代わりにここは、こういうスペースで使いますよというようなことをしてもらったら、減らした面積の部分にいるものはいる、いらぬものは取っていくというようなそういう考え方でやってもらったらいいのかなと思うので、とにかく、もっと図書館の現場の声を聞いてあげて、彼女らも何かやりたいと思っているはずだし、蔵書にこれから本に対しては、来年度予算で必ずつけるので、どれだけの金額が必要かということを書いてもらったらと思うので、60代世代にもっと良い本があるのだったら買えばいいと思うし、子供のためになるのであれば本を買えばいいし、アニメを置いてくれてもいいし、ちょっとその辺もやはり全体的にこれからどういうふうにしていくのかというのを、生涯だけじゃなくて、教育委員会全体で考えてもらったらいいのかなと思います。

教育部長

市長ありがとうございます。

今、市長の方から、人を寄せるにあたって、どういうふうなターゲットにし、どういうふうな取組をしていくのがいいのか、それは教育委員会の方で図書館の司書の声も聞きながら、教育委員会の中でしっかり事業計画を立てて、実施計画なり必要な予算については政策の方にはかかっていけば、市長の方も必要なものについては予算化をしっかりと見ていくとおっしゃっていただいていますので、教育委員会としても図書館をさらに良くしていく方法について、しっかりと検討し計画を立てて予算要求していくような形をとればと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、次へ移らせていただけてよろしいでしょうか。次7ページから14ページまで、他の自治体の図書館へのアンケート調査を行ったことにつきまして、生涯学習課から説明させていただきます。

生涯学習課長

それでは7ページ、他自治体の図書館ということで、和歌山市、海南市、岩出市、田辺市で青森県の黒石市、佐賀県の武雄市、神奈川県の大和市、東京都の武蔵野市に対してアンケート調査を行いました。8ページにはそれぞれどのような図書館、機能があるかと簡単に書かせていただいています。まず岩出市と黒石市は、図書館単体の建物となっています。その下は、複合の図書館、図書館機能以外に様々な機能を持っているという施設となっています。

9ページでは、それぞれの図書館で利用者に喜んでもらうために、どのような工夫とかをされていますかというアンケートをさせていただいたときの回答です。

和歌山市はフリーW i - F i を設置しているとか、或いは電源を座席、自習等ができる座席の近くに電源を設置しています。また、10代向けの蔵書や展示スペース

を設置しています。

海南省は、工作を絡めたイベントを実施、或いはそのイベントのときに関連する蔵書を会場に展示して、POPコンテストの開催でありますとか、お弁当を食べることができるランチスペースの設置、乳幼児用の屋内の遊び場、ボルダリングや卓球ができる会議室やボードゲームを用意して図書館に来てもらえる工夫をしています。またこちらもスマホ充電ができる電源口を設置しています。

10 ページです、岩出市は、工作、読書感想文の書き方など、夏休みの宿題に役立つ教室や折り紙教室など体験教室を開催しています。また、小中学校で、全児童生徒に向けての教科書の内容と並行したブックリスト等を配布します。空席状況を自宅からでもWebで確認できる形となっています。自習室については、一人ずつ机が分かれているのでプライベートを守りながら自習できます。

田辺市は、毎週土曜日にはボランティア、毎週日曜日には職員による読み聞かせ、これをお話の部屋というところで開催しています。夏休み時期は、ボランティアによるお話しランド、職員によるオウマガドキのお話会、これは妖怪怪談話ですね、それにまつわる絵本などを開催しています。11月に市が開催する生涯学習フェスティバルのイベントとして、折り紙教室「カミズタイム」も実施し、やはりこちらでもヤングアダルトコーナー13歳から19歳までの世代のための展示のブースを設けています。自習に関しましては、学習機の隣の席との間に仕切りを設けています。

続きまして11ページ、黒石市です。100冊文庫、これは市内の学校や公民館に図書館のおすすめの本を配本する事業。ベビー室を設け、調乳機やおむつ交換用のベッドを設置し、また、ベビー室の近くに靴を脱いで入るキッズスペースや絵本を配架、フリーWi-Fiも設置しています。そして、学習室では、学習スペースの席ごとにコンセントを設置し飲食物の持ち込みも可能となっています。

続きまして武雄市です。こちらは、子供を対象とした、子供図書館というコーナーを設置しています。絵本作家をお呼びしてのイベント実施、パソコン用のコンセント、また、学習室を静かなおしゃべりをできない学習室と、おしゃべりしてもよい学習室、それぞれ分けて配置しています。無料Wi-Fiや貸し出し用のiPadを用意しています。館内にカフェを設置し、飲み物を飲みながら読書が可能となっています。また、館内の半分のスペースでおしゃべりが可能となっています。

続きまして12ページ、武蔵野市です。飲食をしながら、友人同士の利用が可能。春休みに児童向けのイベント、忍者とかマジック、寄席を実施。図書のフロアを分散配置させ、フロアごとに特色を持たせ多様な利用目的に対応することができる滞在型の図書館です。自習室に関しましては、自習室以外にも隣の席との間に間仕切りがあるスペースを設置しています。

大和市につきましては、夏休みに読書チャレンジ企画を毎年実施しています。また、市内の図書施設を回るそういうスタンプラリーも実施しています。一般者向けのフロアと子供向けフロア、やはりここは子どもやはり音や声を出すので別の階にフロアを分けています。複合施設全体に自習目的で利用できる座席を900席用意しています。

続きまして13ページ、こちらは各市の人口、そして図書館の延床面積、複合施設

の場合はすべての部分です。それに対して人口に対する推奨の延床面積、図書の面積はありません。そちらを参考に載せています。そして、その隣が子供向けのスペース、子供が靴を脱いで自由に過ごせるようなスペースの面積、そして自習室の面積、それから飲食の持ち込み可能な面積というものが記載されています。

こちらで見ましても、その推奨の延床面積を達成しているところ、達成していないところ、まちまちで、結構話題になって人気があったりする図書館であっても、必ずしもこれを達成しているとは限らないというようなことが、少しわかりました。それと子供向けのスペースというのも、かなり比率の高いところもあれば、非常にそういうスペースも少ないというところもあります。これもやはり自治体によって、考え方コンセプトが違うようです。

続きまして 14 ページです。こちらは職員数、これは会計年度を含む人数となっています。そして蔵書数につきましても、人口当たりこれだけが推奨されますという蔵書数を記載されています。最寄り駅からの徒歩の時間、駐車場の収容台数。こちらの蔵書数につきましても、100%を超えるところもあれば 50%前後のところもあるということで、結構まちまちとなっています。説明は以上です。

教育部長

この 15 ページですが、他市図書館から取り入れたい機能、先ほど生涯学習課長から他市の機能面での工夫という説明がありましたが、やはり他市でも、未就学児、中学生、高校生を対象にした取組というのも、かなり取組んでいるのかなと見ていました。皆さんから何かご意見いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

田中委員

職員数のところは、会計年度含むなので、これは正職さんが何人いてるとかというのはいらないですか。

生涯学習課
主査

すみません、資料のスペースの関係で今回は合計してしまった答えにはなっているのですが、実際そのアンケートでは正職さん何人、会計年度さん、ボランティアさん何人で、さらにうち各それぞれのグループでその司書の資格を持っている方何人というところまでは聞いています。今すぐに提示することはできないのですが、後々その情報をお渡しすることは可能です。

田中委員

先ほど、あれもこれもしてくれたらいいと言ったのですが、それこそ本の整理から入っていかないといけないというところで、職員さんが足りているのかなというところがやっぱり気になりましたので、どんな契約で職員さんがいらっしゃるのかちょっと気になったので聞かせていただきました。

教育部長

先ほど 9 ページから 12 ページまでのところで、他市ではこういう取組をしています、本市でも同様の取組をしているものもあるのですが、その他市の取組の中で、本市の図書館の方にも取り入れることが可能なものってあるのではないかなというふうに思いまして、こういうことをしていけばいいのではないかなというのを提案い

ただけたらなと思いました。

市長 事務局からの提案はないのか。調査しているのはすべて広い、市も大きい、小さいのは黒石市だけや、海南市は最近出来たとこだからね。和歌山市も市立図書館が大きくなったところですし、だから大きいとこばかり調査しているけど、橋本市と同等レベルのところの調査していない。

 これ、できるものを中から選べといっても飲食スペース、じゃあどこに作るという話も出てくる。ここ飲食いけたか。

教育部長 基本的に教育文化会館は、飲食駄目となっています。

市長 そんなこと調べて飲食できるようにするのは簡単だけど、だから実際、聞くばかりもええけど、自分らの提案ってないので、例えば、自分らこれ調べてきたのなら、このうちの図書館でこんなことができることがあろうかという担当課としての提案がないのか。

生涯学習課長 13 ページご覧いただきますと、市の人口と名称が書かれてありまして、橋本市は一番下の 5 万 9,000 人で、海南市、岩出市、田辺市、黒石市、武雄市というのは橋本市に近い人口規模だと考えています。各ほかの図書館では、機能面での工夫という中で、もちろんハードの部分の工夫というものもあるのですが、ソフト面での工夫というのも数々ありますので、こういった中のものであれば橋本市でもやっていくことが可能なのかなと、例えばコンセントを設置これは、電気工事が必要になってきますので、またいろいろ検討が必要となります。

平木市長 そんなこと聞いているのと違う。自分らからの提案がないのかっていう話。コンセントって工事したら終わり。でも実際にうちの橋本市の図書館でやれることは、自分らが調査したのに答えがない。これ教育委員の皆さん選ぶのが大変やと思う。ここが改修したらこういうふうに使えとか、という提案がないとおかしいのと違うのか。調べるのは簡単なこと。じゃあこの中で、何かできることがあるのやったら、自分らがこういうことやったらどうやっていう提案がないのか。普通はそれがあって、それをここで揉んでもらって、こういうふうにしたらいいのと違うかとか、ここに何か足したらいいのとちがうかとか。全部丸投げしてないか。さっきの話もあったように、うちの対応は限られるので、限られる中で飲食あかんって言うのなら、飲食はあかんのやろ。じゃあ何をするのよと、こっちが逆に聞きたい。さっきから他市の説明聞いてっても図書館の大きさも違うし、うちみたいな、こんなどちらかというと異質な建物の図書館ってあれへんよ、基本的に。普通 1 階にあるべきものが、5 階にある。これ自分らが橋本市の図書館が所管やけど、所管として調査して何ができるっていうのを自分らで考えたのを提案してくるっていうのが、ここの会議をやる意味だと思うよ。学校教育課やったら ICT 教育できるようにするやん。じゃあ何ができると思っているの。

図書館長

私の今のその図書館のスペース、それから書架の数から考えますと、今の時点では僕は何もできないと思っています。ただ、やろうとするために今これから蔵書の整理をした上で、何かこの中でまた来年度から市長とも話をしていけないといけないと思うのですが、どういうことでターゲットを決めて、どんな人を連れてくるのかということも含めて考えながら、まずは本の整理というのを手がけたところというか、そういうところなので、今市長に言われて何かないのかよと言われたのですが、今浮かんでいるものは全くないのが、現状であります。

教育長

私の思いをちょっと話します。今もやってくれているのですが、しっかり取組んで欲しいなと思ったのは、ビブリオバトルなのです。ただ、ビブリオバトルってハードルが無茶苦茶高いのです。いきなりビブリオバトルしなさいと言ってもなかなかこれはできない。大人が一冊の本を持って、これの良さを1分でプレゼンしてくださいってなかなか難しいのですけども、それができる子っていうのを増やしたいというのは思っています。それができれば、本を読める子が育っているという結果になります。そこへ持っていくために、そしたら何をしないといけないのかっていうことで、ちょっと皆さんのアイデアが欲しいなと思ったりもしています。

学校の勉強の中でこんな事があります。国語の授業なのですけれど、1冊の本の帯ありますよね、帯をデザインしましょうみたいな授業があるのです。それも中身を知っていなかったら書けないし、そういったところから取組むことで、最後ビブリオバトルにつなげるということも考えられるのですけれども、その間がかなりあるのですよね。で、今ビブリオバトルも参加してくれる方というのが、やっぱり数が限られています。何度か聞かせてもらいに行ったら、来てくれている方はすごい方が来ています。しゃべりを聞いたら本当に本読みたいなって、その場で買ってしまったのもあるぐらい上手にプレゼンしてくれます。子供でもそうです。中学生のプレゼンなんか素晴らしいプレゼンをします。だから、そういったことに全市的に取組めるような何か、これは子供から大人まで取組める話なので、そんなことができたかなと思っているのです。そして、そこに至るまでのいろんな、先ほどから出てきている取組をつなげて欲しいのです。1つ1つがブツブツ、ブツブツとなっているのと違って、最後はここにつなげましょうというのを作って、それにつなげるようなことをやっていってくれたら嬉しいなと思っているので、そのアイデアは職員さんで考えて欲しいのです。そして、これが実現したら、すべての世代において読書好きな人が少しでも増えることに繋がるかなと思います。なので、大々的に大ホールでビブリオバトルができるような感じになったら嬉しいなと思っています。実はね、そんなふうにも出来たら素晴らしいと思うのですけれども、本当にそうやって目指すところ具体的なものにして全部いろんなことをつなげていってくれる。それが大事なのかなって、そして、お母さんが子供を連れてきて一緒にそのことを語ってくれるとかね、そんな思いを描いています。これは私の希望です。

図書館長

ありがとうございます。今教育長言われたように、図書館では司書さんたちが、いろんなことを限られたスペースなのですが、季節によっていろんなコーナーを作ったりとか、調べる学習のための読書本を寄せ集めて調べ学習に対応するような本のコーナーを作ったりとか、また作家さんが亡くなったときには、その作家さんを追悼するコーナーを作ったり、作家さんの本を寄せたりとか、いろんな工夫をしながら司書の方が一生懸命考えながらやってくれているので、今教育長もおっしゃったとおりビブリオバトルというのは非常に効果のある事業やと思っていますし、なかなか参加者が増えないというところもありますけれども、その参加者をどう増やすために、もうちょっとブツブツ切れないような流れのあるようなコーナー作りであったり、工夫を今後していったらいいと思いますので、そこは市長とも相談しながら進めていけたらなと思っています。ただ私の頭の中には、今さっき最初言われたように、何かというのがなかなか浮かんでこなかったので申し訳ありませんけれども、そういう形でやっていきたいと思います。ただ、本がとにかく多いので、まずは整理に今重点を置いているところです。

市長

思うのですが、調べる学習コンクールって素晴らしいよね、あれを見せてもらったら、すごいもう感激する。この交流をもっと広い場所で発表会やってあげて、学校からも来てもらって産文でなら産文でして、こういうことをやっているのだなということで、それが間接的に図書館を利用するように、学校図書を見てもらうように、これは本当に表彰式って市長室なので、こんなところでいつもやっていていいのか、もっと子供らに発表の場を与えてあげるってところが、逆に今度、図書館を使ってもらえるようになるのと違うか。何件かしかないので、ちゃんと表彰してあげて。やっぱりあれを見たら感動するよ、本当によく勉強しているなと思う。お父さんの車の中の炭酸飲料は、いつまで置いといてもというのもあったし、ああいうのを見たら、ちゃんと調べているし、昆虫でもいろいろ調べてあったり、ああいう結果をもっと大々的に発表の機会を与えてあげて、それでまた、こういうのを調べるの図書館にありますよというような宣伝の仕方はないかなと思う。あれは本当にもったいなくて、ああいう子供たちがすばらしくできたことを発表の場があってきちっと表彰してあげて。間接的に何かやるというのはうちはやはり限られているので、なかなか何かやろうとしても難しいという、スペース作るしかなくなってくるならその事業の中でそういうふうなものを活用していくというのも発表するっていう経験をしてもらうことも大事だから、何かそういうものを、図書館の主催事業としてやるという方法もあるのでは。あれは素晴らしいで、もう読んでいたら楽しなくなるよ。

教育長

今、市長言ってもらったのはそのとおりで、それもつなげれると思っているのです。調べる学習をやり始めて、出すようになってから7年目です。きっかけを作ってくれてからは大分なと思うのですが、初めのころに比べたらすごく充実しているし、内容はもう大人顔負けの作品が、市長が言われるように出てきています。そ

んな子供たちは、いっぱい本を読んでいますから、その本のこととか自分で調べたことを発表するアウトプットの場というのはすごく大事で、そういうようなことも含めて本を紹介する、自分のしたことを紹介する、何とかアワードにつなげてくれたらと思うのです。図書と関係ないけど、SDG s アワードとか、E S Dアワードとか、そんなのほしいなというところもあります。

教育部長

市長、教育長ありがとうございます。

田中委員

実は調べる学習を見せていただいたことがなかったので、申し訳ないです。でも、きっと私の頭ぐらいただったら子供と同じ目線なので、なんでそんなこと調べたかとか、どんなところから調べたとか、子供にしたらそういうところから興味が繋がっていくのだろうなと思って聞かせていただきました。さっきのビブリオバトルの帯のデザインのところもそうですが、もう少し簡単にしたら、本のPOPを作るであったり、例えば絵本の描写を伝言ゲームで当てるとかゲーム感覚でそういったものに繋がっていったらいいなって、私は、今の図書館も好きでよく行かせてもらうので、いろんな工夫をしてくださっているのは重々わかっているのですが、また、さらにすてきな図書館になったらいいなと思います。そして、未来の図書館は、もう少し下でいいところもあったらいいなってこれは気持ちだけお伝えしておきます。

教育部長

ありがとうございます。

他に皆さん、何かご意見ございませんでしょうか。

簗下委員

高齢者の立場から言いましたら、今の子供たちの読書離れ、活字離れをどうするかでビブリオバトルとかいろんな表彰を、そういう機会を通して意欲を高めているというのはあると思うのですが、高齢者の立場としたら、好きな作家の本が連続しておいてくれてあって、それをずっと読破するのも楽しみではないのです。したがって、心の安らぎの場というのか、高齢者にとったら本当にこの図書館は狭くてもいいのです。入口に入ったら、右側に大きな活字の本を置いてくれてあります。それも例えば、五木寛之とか有名な作家の本もあるし、それから今は、調べ学習とか読書週間の展示をボンと正面にしてくれてありますし、ちょっと左側には英語の本もあったり、僕も好きな作家がおりますので、その作家を読破、全部読んだら次の作家を探していくのですが、それが楽しみで来るのです。ですから、本当に活用させてもらっています。こうして欲しいというのは、今のところないのですが、来るのが楽しみと雰囲気もいいし、前やったら消防についての展示をしてくれていましたし、ですからもう狭いスペースを使って本当に工夫してくれているというのは実感です。それじゃ何を望めというのはちょっと難しいのですが、未来の図書館と考えたらちょっとこう、こんなこと言いたいということになってくるので、その点をご理解いただいて高齢者にとったら本当に楽しくしてもらっている図書館と、そんな感想です。

教育部長

ありがとうございます。

吉田委員

最後なのですけれども、未来の図書館っていう意味では、最終的に予算がというところになってくると思うのですけれども、この資料の14ページですね、最寄り駅からの徒歩ということで、橋本市が20分になっているわけです。岩出市の54分は別にして、非常にやはり最寄り駅から離れていると、できるだけ最寄り駅から近いという、そして利用しやすいというのは非常に大事な点だと思いますので、よろしくお願いします。

市長

今、橋本の駅前に図書館を持っていけないかという計画をちょっと考えているところはあるのですけれども、民間がマンションを建てるという計画が出てきてしまっているんで、今、国と県と市と民間事業者で、橋本の駅前を開発していこうという、今年から準備をしていくのですけど、そういう中でどういうふうにしていくのかという問題もあって、もし、それを計画が駄目になったら図書館の建設っていうのも、新庁舎を建てるにあたって、どういうふうな形にしていくのかっていうのは、あと何年先かな、10年以上先か。（庁舎は、今、5年前倒しという令和15年にできればと。）その時には、どっちみち新しい図書館という形にしていければと、その時にはまた改めて、どんな図書館にするのかというのを議論してもらえばいいのかな、内心はもうちょっと早くしないと駄目かなというところもあるのですけれども。それは、また次の市長さんが考えてくれると思うので、そこまで無理なので、本当に今、若い職員たちで新しい庁舎をどうするのかっていうのを考えてもらっている中で、当然図書館のどういうふうな、やはり1階に持ってこないとうまくいかないのか、そういう庁舎だけ建てて役所の機能を新しい庁舎に持って行って、例えば福祉センターの1階を全部図書館にするっていうふうなことも考えられるのかな。これから、市の内部でもいろいろ協議をさせてもらって、建設時期もちょっと早くしないといけないのかなあと、なんせ昭和30年の建物なので、いつまで持つか、もう68年目に突入するので、その辺のことも含めてちょっとスピードアップをしていくのか、令和11年過ぎたら主だった事業が終わるので、それ以降でやっていくのかというのは、また今後、協議しながらやっていきたい。

駅前に建てるのだったら、上手くいけば5年ぐらいでいけるかな。ただ、民間の相手があるので、なかなかそこはこれから県とも協議しながらやれたらなと思っています。そのときには、いろいろご相談させていただくことになると思いますので、その節にはよろしくお願いします。

教育部長

市長ありがとうございます。予定時間をちょっとオーバーしてしまったのですけれども、ご提案ご意見ありがとうございます。会議録を作成しますので、内容等については、会議録でご確認いただけるかと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、最後に閉会の挨拶を教育長よろしくお願いします。

教育長

今日は、総合教育会議に図書館をテーマにして皆さんからご意見をいただき、市

長にも思いを伝えさせてもらう場を設けていただきました。ありがとうございました。内容を聞かせていただくと、やはり今後、具体的に何を目的にして、それに向けてどんな企画をして達成するのかという、具体的な活動に今の話を落とし込むこと、そしてそれに必要な予算要求をしていくことに尽きるのかなと感じました。

図書館を充実させる目的は、市民の皆さんに図書に親しんでもらう、身近なものになってもらう、そこが一番大事なところであらうかなと思います。そのことによって、豊かな心の醸成につなげていくことが大事なかなと思います。そのため何をするのかということを経済局の中でしっかり議論をして、また教育委員会、総合教育会議においても具体的なことが出てきたら、話に上げてもらい議論できたらいいなとそんなことを思いました。本日はどうも、ありがとうございました。

教育部長

ありがとうございました。

本日は、目指すべき図書館について、建設的なご提案ご意見をいただきました。

本当にありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度の橋本市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

閉会 午後3時19分

署名委員